

戒厳令の宣布日は占いで？



福岡 静哉

「12月12日午後10時2分に2度目の『非常戒厳』が宣布される。韓国の尹錫悦ユンシクヨル大統領が昨年12月3日に非常戒厳を宣布した後、ネット上でこんな書き込みが相次いだ。当時は非常戒厳に失敗した尹氏が再び宣布するとの疑念が野党勢力などで根強かった。だがなぜ、日付の「予言」まで飛び出したのか。キーワードは「王」だ。

非常戒厳の宣布日時（12月3日午後10時30分）の数字「十二三十三十」を組み合わせれば、一部で「一」や「一」が重複するが「王王王」となる。数字の組み合わせがびったり「王王王」となる。「12月12日午後10時2分」が2度目の日時、というわけだ。

冗談のような話だが、不気味に感じた人が多かったのはわけがある。尹氏は2021年10月、約5カ月後の大統領選に向けたテレビ討論会に、手のひらに「王」と書いて出演し、物議を醸した。インターネットの画像検索で「尹錫悦 王」と打ち込めば、今もこの時の様子を見ることができる。妻のキムゴンヒ氏が複数の占師と親交があると報じられており、手

のひらの「王」も占いと関係しているとの疑念を招いた。尹氏は当時、「王のように自信を持つて議論できるようにと支持者が書いてくれたが、討論会の開始前に消せなかった」などと説明した。

「2度目の戒厳」の話題は拡散し、12月6日には韓国の通信社ニュースが「『王王王』 非常戒厳の宣布日に占いの形跡？」との見出しで、2度目の日に注目が集まっていると報じた。尹氏は翌7日、「再び非常戒厳が宣布されるだろうとの話があるが、それは絶対に無い」と火消しに追われた。

2度目は無かったものの、こうした話が真実味を帯びてしまうのは、韓国社会に占いが深く根付いているからだ。占師に相談する政治家も少なくない。占いの歴史に詳しい又石大の金料圭教授は「朝鮮王朝時代から王は、おべっかを使う周囲の人たちを信じられなくて孤独に陥り、占師らに頼った。現代の最高権力者も似た境遇にある」と指摘する。

くしくも、非常戒厳で軍幹部らを指揮したとして内乱罪で起訴された元軍情報司令官は占師だった。尹氏やこの占師、軍幹部らを裁く刑事裁判は今後、本格化する。公判の中で、戒厳令の計画などに占いが影響していたとの話が出てくるかもしれない。